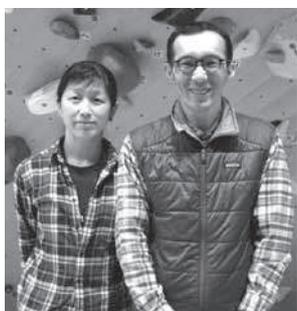




## 生まれ育った地域に支えられた起業家



### すざわ あつし

1975年愛知県生まれ。大学卒業後、大手メーカーの物流子会社に勤務。2018年3月、妻と共にボルダリングハウスノットを創業。

#### 〈企業概要〉

- ▶ 創業  
2018年
- ▶ 従業者数  
2人
- ▶ 事業内容  
ボルダリングジムの運営
- ▶ 所在地  
愛知県名古屋市中区那古野  
1-35-13
- ▶ 電話番号  
052(756)2728
- ▶ URL  
<https://www.bouldering-knot.com>

### ボルダリングハウスノット 須澤 篤

名古屋城から徒歩で20分ほどの場所に、長い歴史を有する円頓寺商店街えんどうじがある。かつては尾張藩の城下町の一部で、昭和の中期ごろまで繁栄を誇っていた。行き交う人の肩が触れ合うほどだったという。その後一時寂れたものの、商店街振興組合による再生の取り組みが軌道に乗り、最近ではしゃれたカフェなど新しい店も増えている。そんな商店街で新しいタイプの店舗が開業した。須澤さん夫婦が経営するボルダリングジムだ。

#### 商店街にある 異色のスポーツジム

——ボルダリングとはどのようなスポーツですか。

岩登りの一種です。ただ、「岩」はホールドと呼ばれる人工物で、壁面に取り付けられます。競技者は、道具を使わず、設置された複数のコースを、制限時間内でいくつ登れるか競うのです。

2020年の東京オリンピックでは、スポーツクライミングが「スピード」「リード」「ボルダリング」の3種目の複合競技として行われます。同じ設定の壁を2人の選手が同時に登り、

速さを競うのがスピード、制限時間内にどの地点まで登れるかを競うのがリード、高さ4または5メートルのコースを制限時間内にいくつ登れるかを競うのがボルダリングです。選手はこれらの総合成績で勝敗を争うのです。

ボルダリングは、高さが12メートル以上にもなる壁を登るスピードやリードと比べ、初心者でも比較的取り組みやすいと思います。壁がそれほど高くなく、安全で、腕力で劣っても、体の使い方やホールドの選択など、登る技術で補えるからです。当ジムでは、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方々が、ボルダリン

グに親しんでいます。

技能のレベルを示す公式の尺度はありませんが、民間の競技団体が、それぞれ独自のものを設けています。競技者だけでなく、趣味として楽しむという人にとっても、技能の向上を確認できるので、励みになると思います。

—このジムの特徴は何ですか。

市の中心部、しかも商店街にあるのが大きな特徴です。ボルダリングジムは、広いスペースを必要とするため、郊外に立地していることが多いのです。地価の高い市の中心部は不向きなのですが、当ジムは小規模にすることで、賃料を抑えています。

室内に幅25メートル、高さ4メートルの壁を設けていますが、この競技の施設としては最小限のものといえます。そのため、クライミング指導員の資格をもつわたしたち夫婦二人だけで運営できています。

郊外のジムには、車を運転して出掛けることが多くなります。中心市街地にある当ジムは、徒歩で地下鉄の最寄り駅から7分、JR名古屋駅からでも20分と、十分歩ける距離です。ボルダリングを楽しんだ後には喉が渇き、お腹もすきます。商店街には飲食店がたくさんあり、運動の後に食事を楽しみたい利用者にはとても便利です。

通りに面した部分はガラス張りで、商店街をそぞろ歩きする人たちに、なかの様子が見えるのも、珍しいと思います。多くの人がボルダリングに興味をもってもらうための仕掛けです。

—どのような人がこのジムを利用するのですか。

地下鉄やJRで通勤している、会社勤めの方が主な利用者です。名古屋市内の職場から郊外の自宅へ帰る途中に立ち寄る方も少なくありません。妻もインストラクターのため、女性の利用者も大勢います。

ターゲットとする客層は大人に絞りました。ジムが狭いうえに夫婦二人だけの営業なので、事故防止のため注意が必要な小さい子どもの利用に対応するのが難しいからです。

ただ、身長が110センチメートル以上、安全上の注意事項を理解しているとの条件で、未成年者にも利用してもらっています。危険な行動があれば、厳しく注意するよう心掛けています。

全日の利用の場合、初回はシューズレンタルやレッスンの料金などを含めて3,500円、2回目以降は2,000円をいただいています。登録した会員数は、2019年4月時点で2,500人になりました。このスポーツの愛好者は着実に増えていると、手応えを感じています。



円頓寺商店街（左端の建物が当ジム）

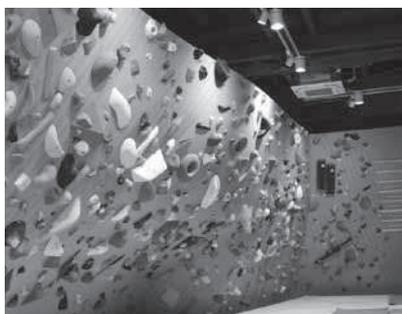
## ボルダリングの魅力を世に広める

—なぜ開業しようと思いついたのですか。

わたしは、大学卒業後、メーカーの物流子会社に就職し、家庭を築いてからは通勤族となりました。娘が小学生のときには家族で静岡に引越し、慣れたと思ったら、名古屋に戻りました。その後は大阪で単身赴任も経験しています。家族そろった落ち着いた暮らしはなかなか得られませんでした。

さらに、勤務先がリストラを進めるなかで、この会社に定年まで勤め続けるのは難しいと悟るようになりました。再就職先探しに苦労する先輩の姿を見て、起業も選択肢として考えるようになっていました。

ボルダリングジムで起業したのは、もともとロッククライミングが趣味だったからです。週末には家族で近くの山に向かっていました。



いろいろな形のホールドが並ぶ壁面

2007年3月、自然の岩山を登る技術を、人工の壁に登ることで高められる、ボルダリングの存在を知りました。試しに始めてみたところ、面白そうだと妻や娘も一緒に楽しむようになりました。家族全員が初めて登り終えた後の達成感は、今でも忘れられません。次第に、ジムを開いてボルダリングの魅力を社会に広めたいと考えるようになりました。

そして2016年8月、ボルダリングがスポーツクライミングの1種目として2020年東京オリンピックで新たに採用されることが決定しました。社会的な関心も高まり、ジムの開店がブームとなります。転勤の多い人生に区切りをつけたかった思いも強まっていたことから、自分も始めてみようという気持ちになったのです。

——開業に向けて、どのように準備を進めたのですか。

まずは、クライミング指導員資格の取得を、夫婦共に目指すところか

ら始めました。テキストで勉強し、泊まりで丸4日間の講習と実技試験も受けました。意外に難しく、途中で諦めた人も結構いました。妻は最初の受験でパスしたのですが、わたしは不合格になってしまいました。

指導員の資格を得た妻は、自宅近くにあるジムで、ボルダリングのインストラクターのアルバイトを始めました。女性のクラスを担当し、指導者としてのキャリアを積みました。その間、わたしも再度勉強し直し、無事指導員の資格を取得しました。

次に取り組んだのは、ジムとして適当な物件探しです。開業する場所は、円頓寺商店街の周辺にしたいと考えていました。自宅から近く、良い雰囲気の場所だと思っていたからです。

問題は建物です。ボルダリングジムを開くためには、倉庫のような天井の高い建物を確保する必要があります。不動産広告で探しても、そのような物件はまったく載っていませんでした。

——この物件にはどのようにして巡り合ったのですか。

探し始めてから1年半ほど経っても、物件はまだ見つかりません。困り果てて知人に相談したところ、円頓寺商店街の空き店舗対策に取り組

むプロジェクトチームを紹介されました。商店街振興組合の組合員が主な構成員で、円頓寺商店街に昔のにぎわいを取り戻そうと意欲的に活動していました。

プロジェクトチームは、空き店舗の所有者と、店舗の購入または賃借を希望する事業者のマッチングを、フェーストゥフェースで行っていました。相談に訪ねたところ、希望物件に対する要望をじっくりと聞いて、所有者と交渉したうえで現在入居している物件を紹介してくれたのです。

建物は、5年前に廃業した電器店でした。2階建てでしたが、1階と2階を吹き抜けにしてもよいということになり、借りの決断をしたのです。ただ、大きな問題がありました。古い建物で、屋根の小屋組みが愛知県指定の文化財となっているため、全体を大きく改装するには、鉄骨を組んで屋根を支える必要があったのです。プロジェクトチームは、このような文化財を保護するための工事を得意とする建築業者をみつけてくれました。

さらに、この建物はジムには少し広すぎました。借りたいのは全体の6割ほどです。これを申し出るとき、虫がいいと笑われるかもしれないと思いましたが、背に腹は変えられません。プロジェクトチームは、この

無理な要望についても耳を傾け、残りの部分を借りてくれる入居者を探し出してくれたのです。

## 地域に支えられての開業

—だから同じ建物にゲストハウスもあるんですね。

もとは電器店だった部分がわたしたちのジムに、奥の居住スペースがゲストハウスになりました。ゲストハウスは別の方が借りて運営しているのですが、トイレとシャワールームを共用することで、互いに経費を抑えています。このような経営上の工夫も、プロジェクトチームが提案し、アレンジしてくれました。

思い立ったときには、気も遠くなるほどの難事業に思えた開業を実現できたのは、プロジェクトチームや不動産の所有者といった、地域の方々から格別の支援の手が差し伸べられたおかげだと思っています。

建物の改装には約半年かかり、2018年3月ようやく開店です。準備を始めてから2年が経過していました。

—ジムの開設は商店街の再生にも貢献しているんですね。

ジムは、商店街の入り口にありますが、電器店が廃業した後はシャッターが下りたままになっていました。

ジムの営業時間は、平日は12時から24時、土日や祝日でも12時から22時ですから、ボルダリングを楽しんでいる人が通りから見えるわたしたちのジムは、商店街の雰囲気をよくすることにも役立っていると思っています。

商店街のお祭りにも参加しています。去年は、会場に仮設の壁を設営し、子どもたちにボルダリングを体験してもらいました。外から利用者が訪れることで、にぎやかさを取り戻すことにも少しは貢献できているでしょう。

—現状を踏まえて、今後の展望を教えてください。

ボルダリングジムの経営環境は、厳しくなっています。東京オリンピックが近づいて、ますます注目度が高まり、異業種の大手企業が参入するようになったからです。

こうしたなかで、顧客層を広げ、



文化財の小屋組みを鉄骨が支える

差別化を図る取り組みを今後も続けていきます。一過性のブームで終わらないよう、3カ月ごとにホールの設置位置を変えるなど、既存の登録会員にとっても飽きのこないコース設定をしています。

われわれが経営するボルダリングジムの店名の「ノット」には、「つなぐ」の意味があります。ジムでボルダリングを楽しむ人たちと地域住民を、スポーツを通じてつなぎたいとの思いを込めました。こうした思いは実現しつつあるように感じています。地域に恩返しできるよう、困難な壁でも登っていきたいのです。

## 聞き手から

「ボルダリングハウスノット」という店名に思いを込めた須澤さんがつないだのは、人と人だけではない。同じ建物にあるゲストハウスは、ジムの開業によって生じる新たな人の流れに期待し、同じ円頓寺商店街で先に開業していたゲストハウスの2号店なのだ。

地域の商店街を再生させる取り組みが、須澤さんによる開業を後押しし、その開業が更なる再生の取り組みにつながっている。このような好循環は、空洞化に悩む全国の商店街にとって、にぎわいを取り戻すためのヒントになるだろう。（田原 宏）